

## 平成 27 年度開催の概要

## 1 概要

森林組合トップセミナー・森林再生基金事業発表会は、民有林再生にかかる取組成果を世の中に広く紹介すること等を目的に、全国森林組合連合会との共催で開催している、森林組合系統における最大級のイベントです。今回は「公益信託 農林中金森林再生基金<sup>※1</sup>」の第 9 回助成先である 7 組合より、事業成果等について発表いたします。

※ 1「公益信託 農林中金森林再生基金」は、国内の荒廃した森林が、地球温暖化防止をはじめとした多面的機能を十分に発揮できない状況を踏まえ、荒廃した民有林を再生する事業・活動に対して助成を行うことで、森林の多面的機能が持続的に発揮されることを目的とした公益信託です。

また、今回は、森林・林業を取り巻く情勢の変化を踏まえ、「変革への挑戦」をコンセプトに、基調講演・特別講演を行います。基調講演では、「‘ウッドファースト社会’の実現に向けた行動宣言」の起草者である島田 泰助先生（一般社団法人全国木材組合連合会 副会長）、特別講演では、「おもてなし集団」の新幹線清掃チームを率いられた矢部 輝夫先生（合同会社おもてなし創造カンパニー 代表）にご講演いただく予定です。

## 2 主なプログラム

7月30日(木)	
13時30分	主催者・来賓あいさつ
14時00分	基調講演 (講師)島田 泰助先生(全国木材組合連合会 副会長) (テーマ)「‘ウッドファースト社会’の実現に向けて」
15時30分	労働安全の取組紹介 (ミス日本 みどりの女神の紹介を含む)
15時55分	第9回森林再生基金事業発表会 (前半)
17時00分	閉会
7月31日(金)	
9時00分	第9回森林再生基金事業発表会 (後半)
11時00分	特別講演 (講師)矢部 輝夫先生(合同会社おもてなし創造カンパニー) (テーマ)「奇跡の職場～新幹線清掃チームの“働く誇り”」
12時30分	閉会

以上

## 第9回森林再生基金助成事業の内容

助成対象先	事業の概要と評価のポイント
<p>おおたわらし 大田原市森林組合 (栃木県)</p> <p>対象地面積 257ha</p>	<p><b>事業名： 低コスト作業道開設による作業システム構築とバイオマス活用の推進</b></p> <p>当地域は、36年前の大規模な林野火災(約1,500ha消失)跡地に造成された比較的若齢の人工林が主体で、そのほとんどが製材用材に向かない低質な丸太生産となることなどから、間伐が行なわれず過密化し、荒廃が進みつつある。</p> <p>当事業では、低コストでの作業道開設による作業システムの構築と、大型集成材工場や木質バイオマス発電所等への多様な販売ルートを開拓し、これらのデータ収集・検証を行い、今後の森林施業のモデル林とすることで、森林所有者の関心を高め、地域の搬出間伐を推進するという取組みが評価された。</p>
<p>ちゅうえつ 中越よつば森林組合 (新潟県)</p> <p>対象地面積 46ha</p>	<p><b>事業名： ゆきぐに「越後長岡」林業再生プロジェクト</b></p> <p>当地域は、豪雪地帯で、戦後地域ぐるみで積極的に拡大造林が行われ、高い人工林率となっているが、軟弱な粘土質土壌等で作業道の整備が遅れていることから、近年、未整備森林が急増し地域の抱える深刻な課題となっている。</p> <p>当事業では、当地域に適した簡易で丈夫な作業道を開設するとともに、木質バイオマスにも対応した低コストで、効率的な作業システムを確立し、ゆきぐに「越後長岡」における林業再生のモデル団地として普及啓発、地域林業の活性化を図るという取組みが評価された。</p>
<p>しんしゅうじょうしょう 信州上小森林組合 (長野県)</p> <p>対象地面積 340ha</p>	<p><b>事業名： 甦れ！十観山周辺林業再生プロジェクト</b></p> <p>当地域は、そのほとんど35～60年生の緊急に間伐を行うべき森林であるにもかかわらず、急傾斜地であることに加え、森林所有者の高齢化や世代交代等もあり、森林経営への関心が低く管理が放棄され、荒廃が進んでいる。</p> <p>当事業では、境界・森林情報をGISに蓄積するとともに、急傾斜地における高性能林業機械と高密路網の組合せによる低コスト作業システムを構築し、その作業システムのデータ収集・分析、マニュアル化を行い、次世代に向けた持続可能な森林経営を目指すという取組みが評価された。</p>
<p>とつかわむら 十津川村森林組合 (奈良県)</p> <p>対象地面積 130ha</p>	<p><b>事業名： 災害に強い基幹路網整備を基盤とした森林資源活用モデル事業</b></p> <p>当地域は、急傾斜地、台風の常襲地帯で、平成23年9月の台風12号による「紀伊半島大水害」に遭ったことなどから、林業用路網の開設には慎重論があり、路網密度が依然として低く、荒廃森林の整備が進まない状況にある。</p> <p>当事業では、成熟期にある森林資源の活用を促進するため、より壊れにくい災害に強い道作り、急傾斜地におけるタワーヤードによる中距離架線集材システムの構築(そのコスト分析・検証を含む。)を行い、今後の森林整備促進のモデルとすることを旨とするという取組みが評価された。</p>
<p>おきどうぜん 隠岐島前森林組合 (島根県)</p> <p>対象地面積 85ha</p>	<p><b>事業名： 海士の森復活プロジェクト～搬出間伐で離島林業の未来を拓く～</b></p> <p>当地域は、戦後造成された人工林が間伐期を迎えているにもかかわらず、松くい虫によるマツ林の壊滅的な被害により、森林所有者の林業経営意欲が減退し、「離島」というハンディもあり、利用されずに放置されている。</p> <p>本事業では、効率的な搬出間伐と間伐材収入の確保を目指して、民有林の集約化を進め、離島におけるイニシャルコストの低い間伐材生産体制の構築と、多様な用途への木材販売収入の確保を図り、所有者への利益還元が出来る仕組みづくりを行っていくという取組みが評価された。</p>

<p>カルスト森林組合 (山口県)</p> <p>対象地面積 187ha</p>	<p><b>事業名： 国定公園及び周辺地域の「林業経営可能な里山再生」事業</b></p> <p>当地域は、秋吉台という魅力的な自然景観を有し、国定公園等に指定されて森林施業等の規制を受けていることなどから、景観等に配慮した適切な森林整備が求められているものの、放置林が多く、森林の劣化が進んでいる。</p> <p>本事業では、地元住民、行政等と連携し、法令の規制や美祢市森林整備計画等に留意した森林ゾーニング、森林整備方針等を検討し、これらに基づき、低コストでの路網整備、搬出間伐、木材のバイオマス用材等への有効活用に努め、持続可能な里山再生のモデル作りを目指すという取組みが評価された。</p>
<p><small>つしま</small> 対馬森林組合 (長崎県)</p> <p>対象地面積 190ha</p>	<p><b>事業名： 未利用材の有効利用等による経営放置林の再生（森林経営計画への参入を目指して）</b></p> <p>当地域は、水源かん養機能や生物多様性維持機能に配慮した適切な森林整備が求められる地域であるが、手入れ不足等による三股木等の形質不良木が多く、ほとんどの人工林が手付かずの状態に放置されている。</p> <p>本事業では、三股木等が多い低質な林分の搬出間伐を推進するため、より一層の素材生産の低コスト化、低質・未利用材の有効利用に努め、そのコスト等のデータ収集・分析・蓄積を行い、現地をモデル林として活用して計画的に放置林分の再生を図り、多面的機能の向上を目指すという取組みが評価された。</p>

(計 7 事業)

以 上